生産情報

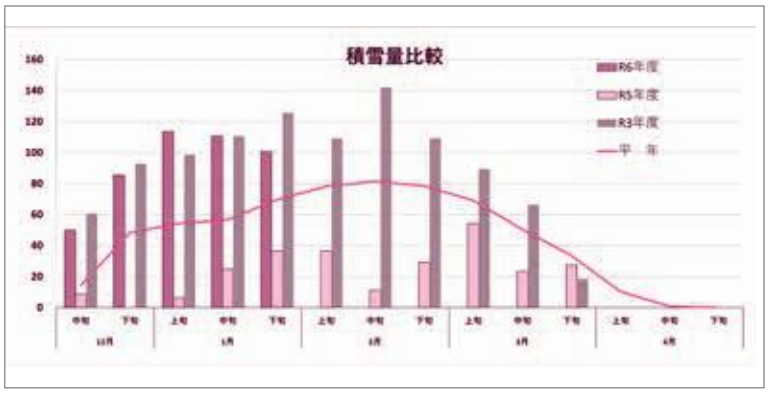
農業振興課主任　齊藤　大貴

●記録的豪雪

ＪＡ相馬村管内における1月下旬の平均積雪量は１０１㎝となっており、昨年と比べて65㎝上回っています。尚、当ＪＡではスマートフォンアプリ「テレグラム」で積雪量推移等の最新情報も配信しています。

令和６年度ＪＡ相馬村積雪量調査

（単位：㎝）



雪害による主枝の折損

●りんご樹の雪下ろしを

記録的な豪雪により、りんご樹の裂開や枝折れなどの雪害が確認されています。被害防止に向けて引き続き雪下ろし作業を行いましょう。

●腐らん病に注意

雪害による被害部分から腐らん病菌の侵入が懸念されます。例年に引き続き、腐らん病の感染に十分注意して対策に取り組みましょう。

腐らん病については、薬剤防除だけに頼ることなく、粗皮削り等の耕種的防除を併せて総合的に行うことが大切です。枝腐らんについては、剪定の際に徹底的に切り取りとるほか、剪定痕などの新しい傷口から侵入しやすいため、剪定によって生じた切り口には、その日のうちにバッチレートを塗り、感染の防止とカルス形成の促進に努めましょう。尚、病原菌は外観上の病斑よりも先まで侵入しているので、切り取る際は健全部を5㎝以上含めて切り取り、病原菌が残らないようにしましょう。また、切り取る場合は、その後のカルス形成を良好にして枯れ込みを少なくするために、健全な芽（又は枝）のすぐ上で行いましょう。

胴腐らんについては早期発見に努めて被害部分の処置を行いましょう。尚、塗布剤には、その有効成分が樹皮内部の深いところまで侵入するタイプと浸透しないタイプの2種類があるので、それぞれの特性をよく理解して間違いのないように行いましょう。

◆トップジンＭオイルペースト

本剤の有効成分は樹皮内部の深いところまで浸透します。病斑の境界部を確認し、内部の腐敗した樹皮を削り取り、削り取った跡にはトップジンＭオイルペーストを丁寧に塗布しましょう。尚、本剤は治療後のカルス形成を阻害する傾向が強いので、カルス形成が劣る衰弱樹は腐らん病治療には適さないとされています。また、本剤は耐性菌を生じやすい性質を持っているので、再発した場合はフランカットスプレー又はバッチレートによる治療を行ってください。

◆バッチレート又はフランカットスプレー

本剤の有効成分は樹皮内部に浸透しにくいので、病幹部だけでなく周辺健全部も丁寧に削り取ってから処理を行いましょう（削り取った跡が紡錘形になるようにする）。

㈱　フランカットスプレーはカルス形成促進効果が期待できない。

２種類の塗布剤

令和7年産りんご防除の変更点について

1月14日、JA相馬村りんご共同防除組合連絡協議会とJAが防除暦編成会議を行い、令和7年産りんご防除の変更点を確認しました。

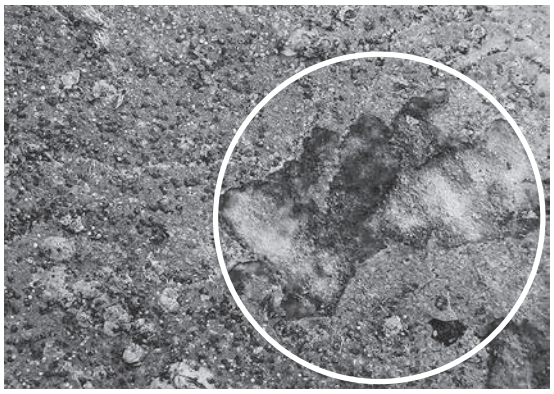
ナシマルカイガラムシ防除の強化

昨年6月中旬頃、果実に赤い斑点が見られるとの相談が相次ぎ、ナシマルカイガラムシの被害が確認されました。県内各地でも同様の被害が報告されたことから、防除の強化をはかります。

- 被害樹の枝幹では表面下が赤紫色に変色
- 寄生枝の葉は冬季になっても落ちにくい
- 剪定の断面が紫色に変色している

剪定時にはこのような点に注意し被害が生じている園地又は樹では**発芽前にハーベストオイル50倍の特別散布**を実施し、越冬幼虫を対象に散布します。

また、発生が多い園地では1齢幼虫の移動が始まる**6月中旬頃にコルト3000倍**を散布して防除に努めましょう。



ナシマルカイガラムシの被害樹

リンゴハダニ対策

令和6年はハダニ類の初発が遅かったことが印象的でした。例年に比べリンゴハダニの発生も一部園地で見られ、防除剤が限られている中で防除に苦労する場面も散見されました。

リンゴハダニは卵で越冬し、越冬卵は枝の分岐部、芽の基部、樹皮のしわ部分などに産み付けられます。発生が懸念される場合は、**春先のマシン油200倍と落花直後のバロック2000倍**での初期密度低下を図りましょう。落花直後以降は予察を徹底し、発生状況に応じて適切な殺ダニ剤の選択をするなど、最後まで気を緩めることなく防除に徹することが大切です。

リンゴハダニの越冬部位

褐斑病対策

褐斑病の防除は、7月上旬からの二次感染で防ぐのではなく、春先の一次感染を防ぐことが重要となります。本年の防除においても菌密度が高いことが懸念される場合は、**開花直前にパレード2000倍**を選択しましょう。

コンフューザーRの設置

菌密度低下と被害果の減少に向けては、地域一丸となってのコンフューザーRの設置が前提の防除となります。本年も積極的な設置をお願いいたします。

ＪＡ全農あおもりから前掛けが提供されます